

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

「来年度初め、新規採用職員を対象に、地方自治制度について講義をしてほしい。自治大での体験も交えて」

1月下旬、ちょうどこの原稿を書き始めた日に派遣元から受けた電話である。何について話そうかと思いつくと、今年度はイレギュラーなことばかりの1年間だったと実感する。

3月31日、地元で時間ギリギリまで引継ぎをして立川に向かった。新型コロナウイルスの感染拡大のなか「緊急事態宣言が出てロックダウンになるらしい」などと噂されていた時期であり、「研修は本当にあるのか」とよく周囲から聞かれていた。

4月1日にはマネジメントコースが始まり、教務部にて他研修生と入校決定通知の準備を始めていたが、緊急事態宣言の発出を知ったのはその数日後、買い出しに行った近隣のショッピングセンターの店内放送によってだった。

「本日19時、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、政府により緊急事態宣言が発令されました。このことに伴い、明日4月8日から当面の間、当館は休館とさせていただきます。繰り返します。～」

自治大においても研修日程を見直すこととなり、受講予定の第1部課程134期は8月からと延期に。研修受講中は、政策立案演習の現地調査が現地訪問からオンライン調査となるなどの変更もあったものの、他の研修生との交流も(三密を避けつつ)例年と変わらない濃度で行うことができたのではないと思う。

受講終了後は、間を置かずに第1部課程135期の運営に回り、政策立案演習を担当することとなったが、1月7日にまさかの2回目の緊急事態宣言。2月5日の卒業式まで、宣言下での研修となった。

このように色々あった1年間ではあったものの、今年度最後の課程となった第1部課程135期も政策立案演習の発表会を残すのみと、何とかゴールが見えてきている。この後も何事もなく無事に運営課程が、またマネジメントコースが修了して、終わりよければ全てよしとなることを祈り、筆を置く。

(Y. T)



第1部課程134期(基本法制研修A5期)卒業後の談話室